



今日のキーワード 『SQ』まではショートカバーが日本株の戻りをけん引か？

6月12日に“Special Quotation”（『SQ』）を迎えます。前回の3月13日の『SQ』は新型コロナの世界的な拡大などを背景にパニック的な売りから日経平均株価は急落、ボラティリティも極めて高水準となる中で迎えました。その後3月19日には年初来安値となる16,552.83円となりました。今回は、ショートポジションが異例な水準まで積み上がり、『SQ』前後まではそのショートカバーが引き続き株価の戻りをけん引しそうです。

ポイント1

『SQ』とは先物・オプション取引を決済するための特別清算指数

『SQ』前は変動性が高まる傾向

- 6月12日に株価指数先物とオプション取引の『SQ』を迎えます。『SQ』とは株価指数の先物取引やオプション取引などを、決済期日で決済するための「特別清算指数」のことを指します。
- 投資家は『SQ』に向けて多様なポジションの決済等の対応を迫られます。『SQ』前に何らかの要因で株価が変動した場合にポジションを一気に解消する動きが出て、株価の変動率が大きくなる傾向があります。

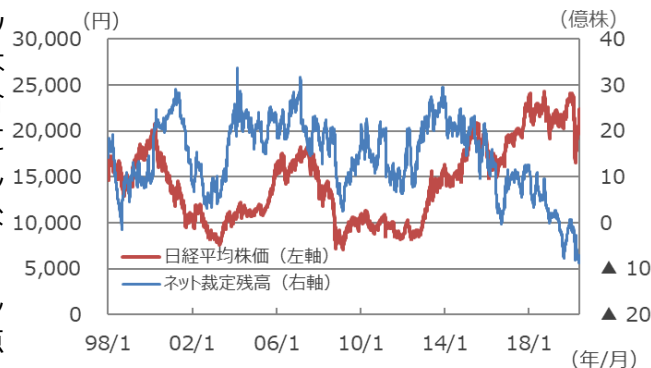
ポイント2

テクニカル指標が異例の水準後反発

ショートポジションは高水準

【日経平均株価とネット裁定残高】

- テクニカル指標をみると、日経平均ボラティリティ・インデックスは、3月16日には、60.67%に上昇、5月11日には28.01%に低下しました。値上がり値下がり銘柄の割合を示す騰落レシオ（25日移動平均）は、3月16日に40.12%に低下、6月2日には150.78%まで上昇しました。これらの数値の変化から、今回の相場変動が大きなポジション調整による急速なものであったことがわかります。
- 日経平均株価は、こうしたポジションの買戻しがけん引して急反発していますが、ネット裁定残高は5月29日時点で▲7.14億株で依然異例な状況にあり、ショートポジションはなお高水準にあると想定されます。



(注) データは日経平均株価は1998年1月5日～2020年6月2日。
ネット裁定残高は1998年1月5日～2020年5月29日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

『SQ』前後まではショートカバーが日本株の戻りをけん引か？

- ショートポジションの内訳をみると、日経平均先物中心に売りが出たため、ネット裁定売り残は日経平均型の割合が高まっています。また、日銀は3月16日にETFの購入目標額を12兆円に倍増を決めましたが、日銀の買いは大部分がTOPIXのため「日経平均売り・TOPIX買い（NT取引）」の取引が活発化し、そのポジションの解消も予想されます。この結果、『SQ』に向けて日経平均中心のショートカバーが継続して、株価の戻りをけん引するとみられます。ただ今回の株価反発は異例の水準となったショートポジションの買戻しが株価の戻りを増幅した面があり、『SQ』前後が戻りの一巡局面となる可能性に留意する必要があるとみられます。

ここも
チェック!

2020年5月15日 新型コロナショックで異例の水準となった日本株のショートポジション
2020年3月6日 『SQ』前後が日本株の下落局面の転換点か？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。